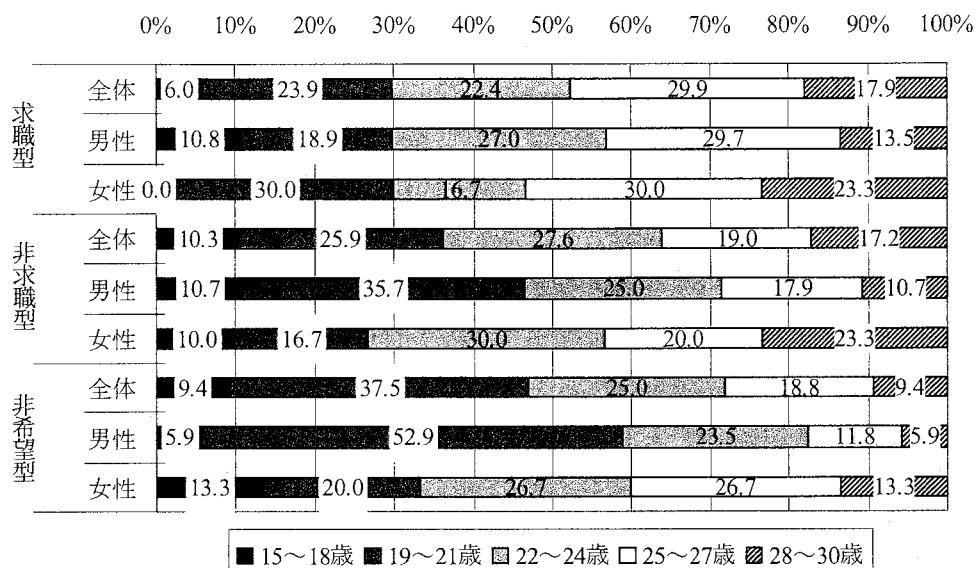


りも相対的に高いことを意味している。その結果、男性で就業に対して極めて消極的な「非希望型」がかなり若い層に集中する結果になっていると考えられる。

図3-1-1 タイプ別・性別 年齢構成



### 第3節 タイプ別の家庭背景

本節では、無業者の家庭背景として、両親との離死別状況、現在の世帯構成及び暮らし向き、そして家庭外との接点の度合いとして外出頻度を、それぞれタイプ別に検討する。

#### 1 各タイプの両親状況

表3-1-1は、両親の状況をタイプ別に示したものである。「両親ともいる」比率は「求職型」83.6%、「非求職型」77.6%、「非希望型」71.9%で、調査対象サンプル全体の88.4%と比べて「非求職型」及び「非希望型」では両親が健在である者の比率が10ポイントないしそれ以上低くなっている。特に「非希望型」女子は両親が健在である比率は60.0%と低く、父母との離死別経験者が40.0%を占めている。「非求職型」では父離別、「非希望型」では父死別の比率が高い。

表3-1-1 無業者タイプ別性別 両親の状況

		両親ともいる	母死別	母離別	父死別	父離別	両親ともいない	合計	
求職型	男性 度数	30	0	0	3	4	0	37	
	%	81.1	0.0	0.0	8.1	10.8	0.0	100.0	
	女性 度数	26	1	1	0	2	0	30	
	%	86.7	3.3	3.3	0.0	6.7	0.0	100.0	
	男女計 度数	56	1	1	3	6	0	67	
	%	83.6	1.5	1.5	4.5	9.0	0.0	100.0	
非求職型	男性 度数	22	0	0	2	4	0	28	
	%	78.6	0.0	0.0	7.1	14.3	0.0	100.0	
	女性 度数	23	0	0	0	5	2	30	
	%	76.7	0.0	0.0	0.0	16.7	6.7	100.0	
	男女計 度数	45	0	0	2	9	2	58	
	%	77.6	0.0	0.0	3.4	15.5	3.4	100.0	
非希望型	男性 度数	14	0	0	2	1	0	17	
	%	82.4	0.0	0.0	11.8	5.9	0.0	100.0	
	女性 度数	9	2	0	2	1	1	15	
	%	60.0	13.3	0.0	13.3	6.7	6.7	100.0	
	男女計 度数	23	2	0	4	2	1	32	
	%	71.9	6.3	0.0	12.5	6.3	3.1	100.0	
タイプ計	男性 度数	66	0	0	7	9	0	82	
	%	80.5	0.0	0.0	8.5	11.0	0.0	100.0	
	女性 度数	58	3	1	2	8	3	75	
	%	77.3	4.0	1.3	2.7	10.7	4.0	100.0	
	男女計 度数	124	3	1	9	17	3	157	
	%	79.0	1.9	0.6	5.7	10.8	1.9	100.0	
サンプル全体		%	88.4	1.7	0.8	3.9	4.5	0.4	100.0

## 2 各タイプの世帯構成

各タイプの世帯構成、すなわち同居家族の構成を見ると、「求職型」の男女1名ずつと「非求職型」の女性1名が一人暮らしであり、また「求職型」2名、「非求職型」3名、「非希望型」1名が親以外の家族・友人等と暮らしているが、これらを除く94%の無業者は両親あるいは片方の親と同居している。

調査対象サンプル全体では、既婚者が12.5%を占めていることもあり、親と同居している者は82.2%である。この値と比較すれば、無業者は親との同居者の比率が高いといえる。

## 3 各タイプの暮らし向き

タイプ別・性別の現在の経済的な暮らし向きを図3-1-2に示した。サンプル全体と比較して、暮らし向きが「苦しい」ないし「やや苦しい」と答えた比率は「求職型」でやや多い。「非求職型」及び「非希望型」ではむしろ「ゆとりがある」と答えた者の比率（それぞれ17.2%と15.6%）がサンプル全体（12.8%）よりもやや多くなっている。特に「非求職型」女性の20.0%、「非希望型」男性の23.5%は「ゆとりがある」と答えている。今回の無業者サンプルにおける「非求職型」及び「非希望型」は、家庭の暮らし向きが特に苦しいとはいえない。ただしいづれについても、「わか